報道発表 Press Release No: 242-20-33

2020 年 11 月発行

筑波大学

# 高齢者の社会的孤立、英国より日本で悪化

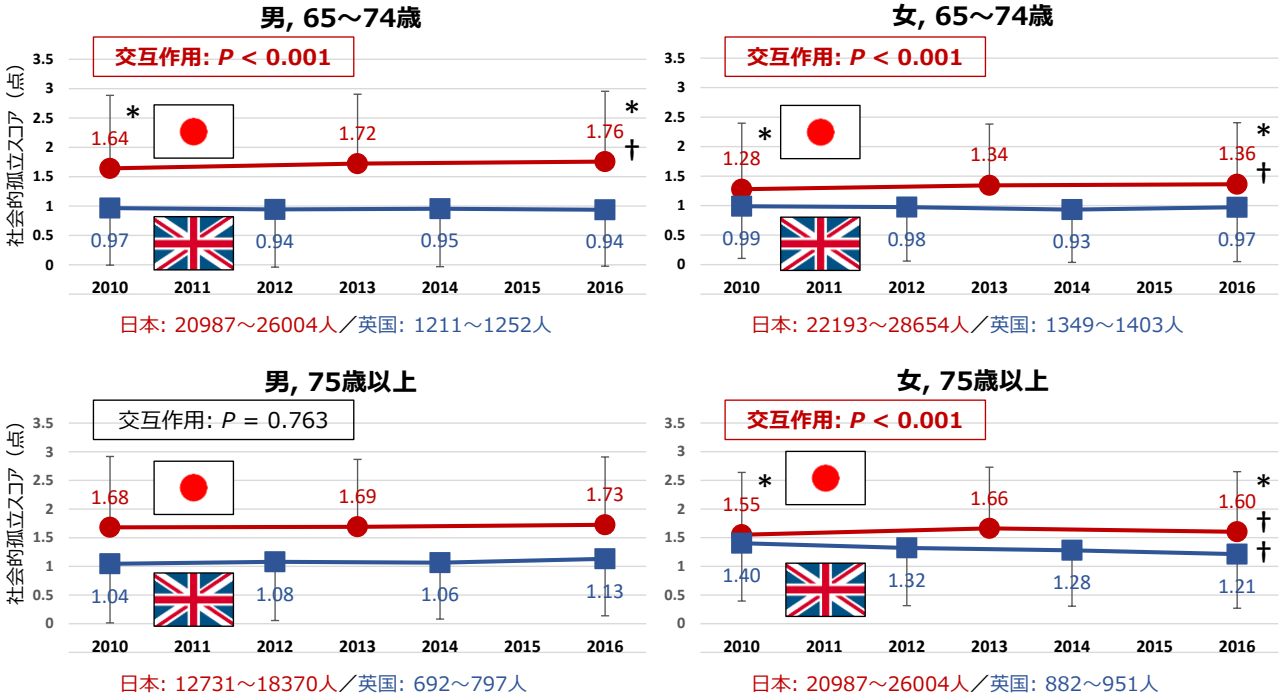
## ～2010年から6年間で親戚付き合いが10～15%減少～

社会的孤立は喫煙に匹敵する死亡リスクといわれています。日本では近年、独居高齢者が増え続けているものの、社会的孤立の状況はよくわかっていません。そこで、2010年から2016年にかけての推移を、社会的孤立の対策先進国である英国と比較しました。その結果、英国ではほぼ横ばい、もしくは改善傾向が確認された一方で、日本では徐々に悪化していることが確認されました。特に親戚付き合いの希薄化が顕著であり、性・年代を問わず10～15%程度減少していました。

お問合せ先： 筑波大学体育系 助教 辻大士 tsuji.taishi.gn@u.tsukuba.ac.jp

**社会的孤立スコア**（それぞれに該当した場合1点とし、計0～5点で評価）

1. **未婚**、あるいは**配偶者・パートナー**と同居していない
2. **子**と同居してない、あるいは手段的・情緒的サポートの授受がない
3. **親戚**（配偶者・同居の子以外）との手段的・情緒的サポートの授受がない
4. **友人・知人**と会う頻度が月1回未満、あるいは手段的・情緒的サポートの授受がない
5. **地域**の組織や集まりに**社会参加**していない




エラーバーは標準偏差を意味する.
交互作用 $P < 0.05$の場合、年次推移が日英間で異なることを意味する. ＊ 日英間差: $P < 0.05$; † 2010年と2016年の差: $P < 0.05$

図1. 性・年代別の社会的孤立スコアの平均値の推移（2010～2016年）

■背景
社会的孤立は喫煙に匹敵する死亡リスクといわれています。日本では独居高齢者が増え続けるなど、孤立しやすい高齢者が増えている状況ですが、その詳細はよくわかっていません。一方、英国は2018年に世界初となる孤独担当大臣を設置するなど、この問題に対する対策先進国です。そこで本研究では2010年から2016年にかけての高齢者の社会的孤立の推移を、日本と英国(イングランド)の間で性・年代ごとに比較しました。

■対象と方法
日本老年学的評価研究(Japan Gerontological Evaluation Study: JAGES)の2010、13、16年の3度の調査(各、約7～9万人)と、英国縦断的高齢化調査(the English Longitudinal Study of Ageing: ELSA)の2010～11、12～13、14～15、16～17年の4度の調査(各、約4千人)のデータを用い、繰り返し横断研究を行いました。社会的孤立は、①未婚、あるいは配偶者・パートナーと同居していない、②子と同居してない、あるいはサポートの授受がない、③親戚(配偶者・同居の子以外)とのサポートの授受がない、④友人・知人と会う頻度が月1回未満、あるいはサポートの授受がない、⑤地域の組織や集まりに社会参加していない、それぞれに該当した場合1点とし、0～5点で評価しました。二要因分散分析を用いて、2010～16年の社会的孤立スコアの推移を日英間で比較しました。

■結果
2010年の時点で日本は英国より平均スコアが0.15～0.67点高く、社会的孤立の程度がもともと重度であることが確認されました。2010～16年の推移を比較したところ、65～74歳の男・女と75歳以上の女性で統計的に意味のある日英間差が確認され、日本でのみ平均スコアが上昇していました(それぞれ1.64→1.76、1.28→1.36、1.55→1.60点、図1参照)。この上昇に影響した要因を調べたところ、“③親戚とのサポートの授受がない”者が共通して顕著に増えていました(それぞれ、52.7%→58.9%、31.5%→41.1%、25.2%→39.2%、図2参照)。一方、英国の75歳以上の女性では平均スコアが減少しました(1.40→1.21点)。

■結論
日本は英国と比較し、高齢者の社会的孤立がもともと多く、近年さらにその差が拡大していることが明らかとなりました。その主な要因は、日本における親戚付き合いの希薄化によるものでした。

■本研究の意義
家族・親族との関係性に比べ、介入により改善の余地が大きい社会参加を促進し、友人・知人との繋がりを増やす重要性がより一層高まったと判断できます。英国で既に制度化されている「社会的処方」のような取り組みが、今後の日本の社会的孤立対策を進めるうえで参考になるかもしれません。

■発表論文
Tsuji T, Saito M, Ikeda T, Aida J, Cable N, Koyama S, Noguchi T, Osaka K, Kondo K. Change in the prevalence of social isolation among the older population from 2010 to 2016: A repeated cross-sectional comparative study of Japan and England. Archives of Gerontology and Geriatrics (Epub ahead of print)

■謝辞: 本研究は独立行政法人日本学術振興会、厚生労働省、国立研究開発法人日本医療研究開発機構、国立研究開発法人科学技術振興機などから研究費の援助を受けて行われました。

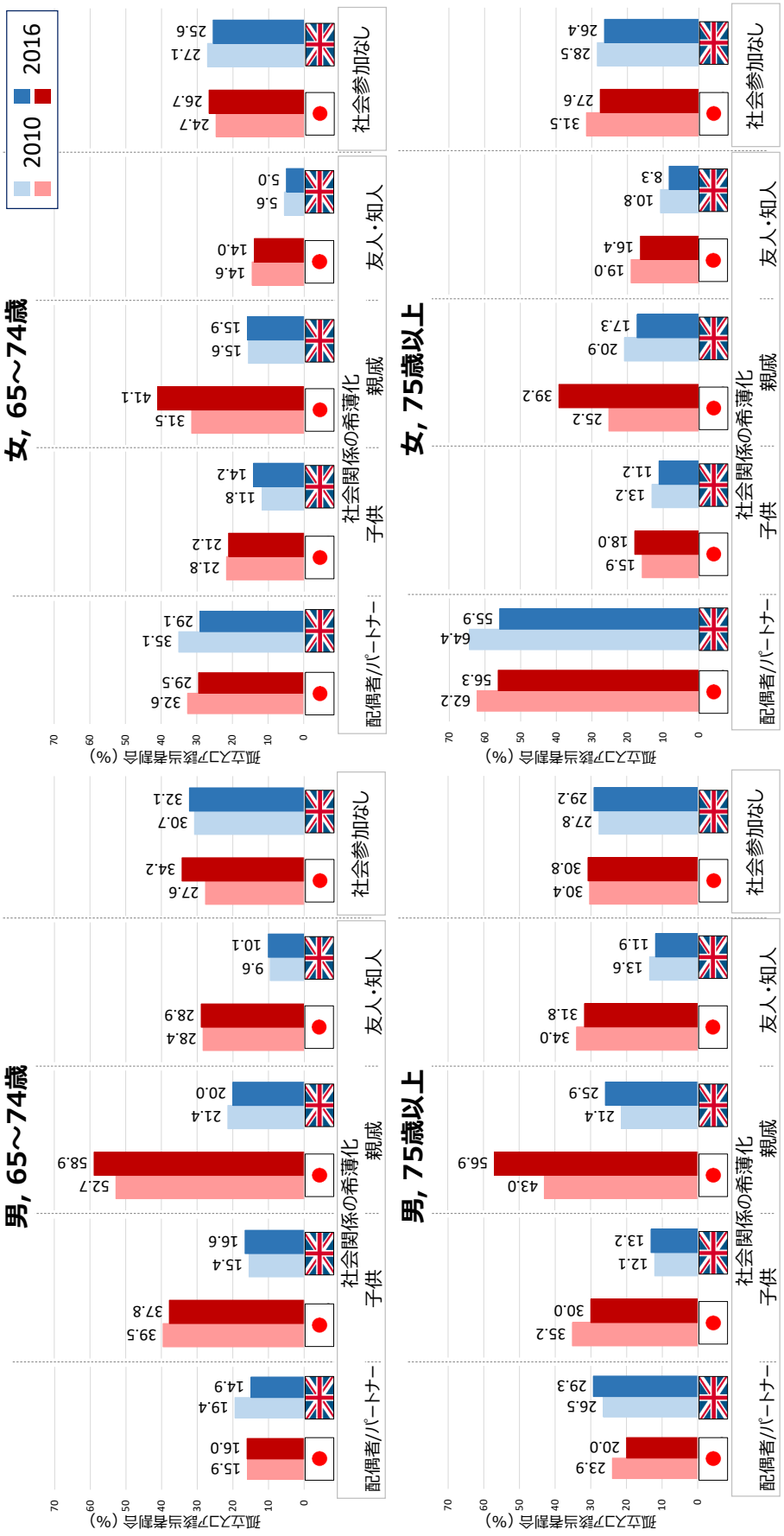



図2. 社会的孤立スコアを構成する各要素の該当者割合（2010年と2016年の比較）